《第168回放送番組審議会議事録》
１．開催年月日　　令和8年9月28日(月)開催
２．開催場所　　エフエム西東京　1階　会議室　（東京都西東京市芝久保町5-8-2）

３．出席委員
委員総数　　7名
出席委員　　4名　　野澤秀夫委員　小松真弓委員　村田志保委員　松川紀代実委員

欠席委員　　3名　　下川隆委員長　賀陽智之委員　山本恒安委員
（事前に意見書提出あり）

放送事業者側回答者
鈴木洋行（代表取締役）　大塚誠（取締役）　髙橋絵里（地域事業本部 メディア事業部　プロデューサー）

４．議　題

審議番組　　池田大介プレゼンツ！ 西村ヒロチョのクラシック中毒レベル1

クラシックって「敷居が高い！？」「上品すぎて退屈！？」
そんなイメージを覆す、新感覚クラシック入門バラエティ
音楽室の肖像画の裏にある、「！？」を解体！
「知識はないが興味はある」そんなあなたを、よしもと随一の音楽芸人・西村ヒロチョが
クラシックの入口へエスコートいたします。

５．議事の概要
あらかじめ送付した番組を録音した音声を聴いていただき審議。

６．審議内容
審議委員意見

・クラシック音楽に詳しくない人でも、楽しみながら親しみを持って聴ける番組。
・「中毒レベル1」というタイトルどおり、クラシックを身近に感じられる内容だった。
・作曲家の作品だけでなく、人物像やエピソード、失敗談などを紹介することで、作曲家に親近感を持つことができた。
・マニアックな情報が多く、クラシックに詳しい人にとっても興味深い内容だった。
・3人の作曲家それぞれの個性や生き方の違いが際立ち、比較しながら楽しめた。
「クラシックは音楽室の肖像画」というイメージを覆し、新しい楽しみ方を教えてくれる番組だった。
・この番組がきっかけでコミュニティFMらしい、個性的でマニアックな番組が増えてほしい。
・15分という短い時間の中でテンポ良くまとめられており、聴きやすかった。
・シューベルトが31歳で亡くなり生涯600曲以上を作曲したことなど、知らなかった情報が多く興味深かった。
小室哲哉との比較など、現代の人物を例にした説明が分かりやすかった。
・シューベルトの「魔王」など、作品の背景や作曲家の心情を想像しながら紹介する構成が面白かった。
・リストの容姿やカリスマ性、ピアノ練習、キャラクターグッズのような逸話など、意外な一面を知ることができた。
・メンデルスゾーンの「結婚行進曲」や「真夏の夜の夢」など、作品が生まれた背景を知ることで、曲を違った視点から聴くことができた。
・「普通は使わない和音」など、専門的な音楽ネタが適度に盛り込まれている点もよかった。
・作曲家の背景を知ることで、これまでとは違ったクラシック音楽の聴き方ができた。
・「リストがチャラ男」という紹介をきっかけに、実際にインターネットで調べた。
・池田大介さんの音楽的な知識や経歴にも関心がでた。
・西村ヒロチョさんの声質がきれいで、話し方や声に力があり全体的に非常に聴きやすかった。
・軽快でテンポの良いトークと、大学で音楽を専門的に学んだ専門的な解説のバランスが良かった。
・地元の話題などからも出演者の人柄が伝わってきた。
・「最初に作曲家について話し、最後に実際の曲を聴く」という構成が良かった。
・興味を持ったところで実際の楽曲が流れるため、内容をイメージしやすかった。
・クラシック音楽を番組冒頭からBGMとして自然に流しておくことで、より音楽に親しめるのではないか。
・メインの曲を紹介する際にBGMがやや大きく、楽曲やトークが聴き取りにくく感じた。
・「陰キャ」という言葉について、幅広い年代のリスナーには意味が伝わりにくい可能性がある。
・ライブ告知の際は、開催日時・会場などをより具体的に伝えると、リスナーに分かりやすい。
・「真夏の夜の夢」について、直前のピアノの話からピアノ曲だと誤解する可能性があるため、エピソードと楽曲の繋がりを
より明確にしてほしい。
・クラシック音楽をより身近に感じてもらうため、地域のコンサート情報などとの連携もあればよいのではないか。
「素人にも分かりやすい解説」という番組の強みを生かし、有名音楽家を1人ずつ深く掘り下げるシリーズ企画なども聞きたい。
・クラシックは詳しくないが、背景を知ることができて全く違った聞き方ができて、新しい楽しみ方を教えてもらった。
・偏愛、個性が際立っていてわくわくして聞いた。
・クラシックのCDを出してきてまた聞きたいと思った。

局の回答

池田大介さんの「クラシック音楽をもっと身近に感じてほしい」という想いから制作された番組であり、その意図が番組全体を通して
しっかりと伝わっている。
クラシック曲や作曲家をただ説明するのではなく、大学で音楽を専門的に学んだ西村ヒロチョさんを起用したことで、専門性と
エンターテインメント性を両立した内容となっている。
明瞭で親しみやすい語り口に加え、ユーモアを交えながら楽曲や作曲家の人柄を紹介することで、クラシックに馴染みのない人でも
楽しみながら聴くことができる点が評価されたと思われる。
クラシック音楽に詳しくない審議委員からも「楽しい」と感じる番組との声があり、クラシックへの敷居を下げるという狙いが
実現できている。
また、分かりやすい解説は、小中学校の音楽教材として活用してもよいのではないかという意見もあり、教育的な可能性も感じられる。
一方で、ヒロチョさんの解説を聴くことで楽曲を早く聴きたくなるため、曲を流すタイミングを工夫してもよいのではないか。
解説で興味を高めた上で楽曲を聴いていただくことで、より印象に残る音楽体験につながることも期待される。
番組名の通り、クラシック音楽を「もっと聴きたい」と思わせる魅力があり、リスナーの興味を自然に引き出す番組となっている。
今後、レベル2、3と内容を発展させながら、クラシック音楽の楽しさや奥深さをさらに伝えていくことが期待される。
幅広い世代にクラシック音楽の魅力を届ける番組として、今後さらに多くの方に聴いてもらえることを期待したい。

７．審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日
なし
８．審議機関の答申または意見の概要の公表
自社放送　事務所への備え置き、自社HPでの掲載
９．その他の参考事項
なし